

2022年7月25日(月)

**学習評価は技能だけではない！
「小学校の体育の授業づくり」
(理論・実技編)**

実技記録

帝京大学 教授 高田 彬成



福岡県体育研究所

学習評価は技能にだけではない!

小学校の体育の授業に
(理論・実技編)

No. 1

専門研修

講座

実技記録

R4年7月25日(月)

研修内容 活動・指導上の留意点

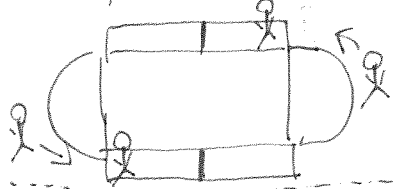
<10メートルリレー>

□ チーム分けは、大切。チーム分けは、意図的にこだわるべき。

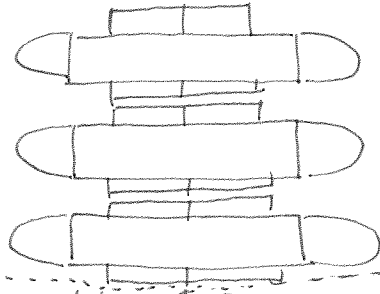
・ 50m走のタイムを基に、チーム毎で合計タイムが同じ程度になるようにする

□ 勝敗よりも、バトンパスができていないかどうかに着目して、思考を促す

~ 2チームの場合 ~



~ 細長で3つ作り、6チーム同時可能 ~



□ リレーはチーム○○

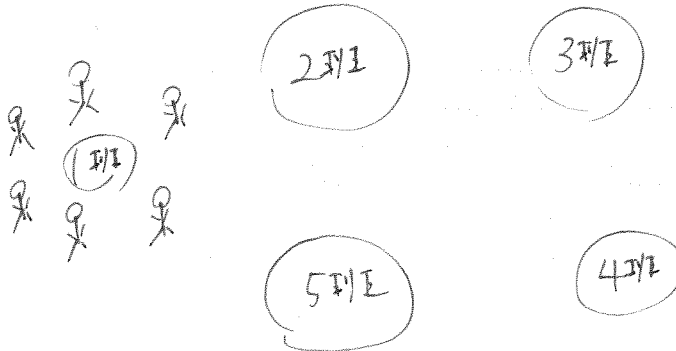
・ 意図的に仕組んだリレーへの学び

・ 合言葉は、「ほうりん草」⇒方法を考え、練習を工夫し、走る

・ 教師は、リレー活動に積極的に介入

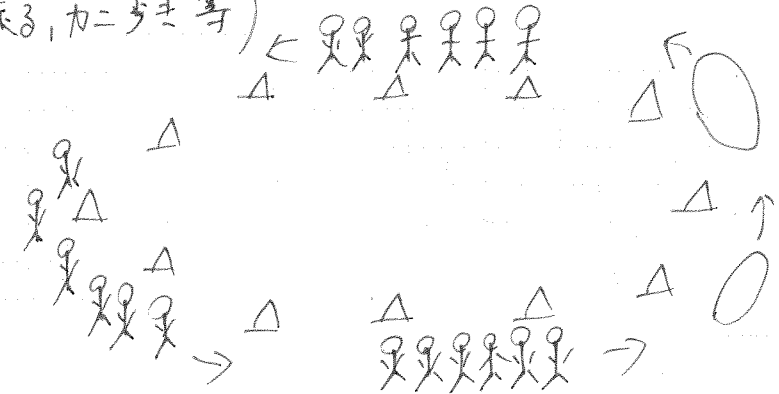
・ 記録の向上 = リレー活動の成果

① 準備運動 (5つのリレーに分かして、自己紹介後、各リレーで準備運動)



(ポイント)
準備運動は、
クラス全員で行う(行)
よりも、リレー毎に
顔を見合わせながら
行う方がよい

② 軽くランニング(走る、かき足等)

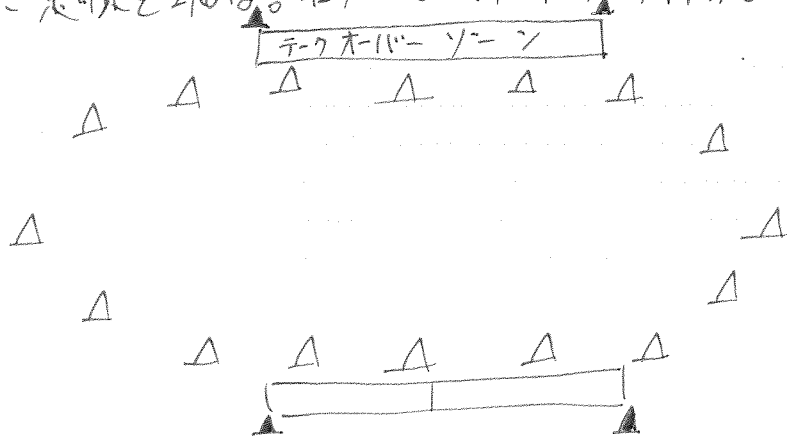


R4年 7月25日 (月)

研修内容 活動・指導上の留意点

① リレー 1本目

各チーム毎に走順を決める。各チームでバトンパスの練習。



- ① 1班 VS 2班
(49秒1) (48秒3)
*走順によりバトンパスの時間測定
- ② 3班 VS 4班
(51秒8) (51秒5)
- ③ 5班 VS 2班
(51秒7) (45秒6)

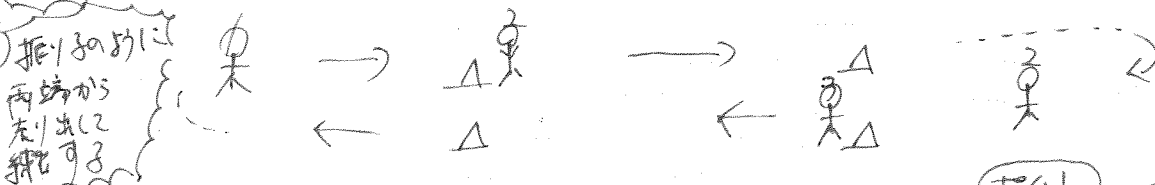
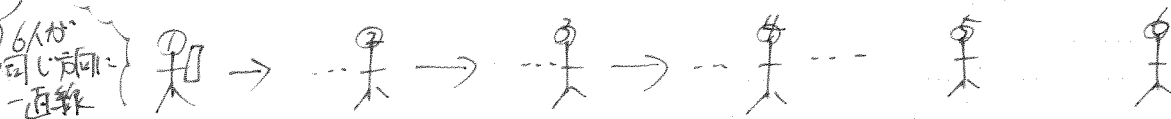
の順位にこだわらなくても、(回目のタイムを課題として、タイムを速くするために、どんな練習を行っていく必要があるかを考えさせていく。

バトンの渡し方やもらう方は、「左手でもらう、右手に持ち替えて、右手で渡す」が合理的。*左手でもらう方が、前方を目視しやすい。

*右手で渡した方が、走り終わった後、トラックの内側を通り、トラックから出やすい。

② 各クラス7人でバトンパスの話し合い、及びバトンパス練習

各クラスでの練習の様子



③ リレー 2本目

- ① 1班 VS 3班
(44秒7) (46秒7)
-4秒4 -5秒1
- ② 2班 VS 4班
(43秒5) (45秒8)
-2秒1 -5秒7

- ③ 5班 VS 3班
(49秒9) (47秒)
-1秒8

ポイント

各班、タイムを速くするために、バトンパスの上手く渡すと言えよ。

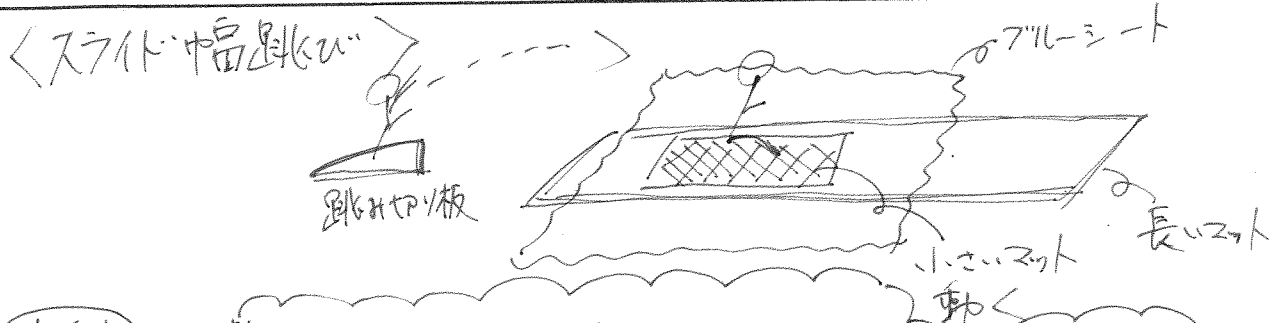
一つの効果的な練習法として、振り子練習がある。各チームの分け方は、合計タイムを基に、人間関係等も踏まえようとする。

勝敗にこだわらなくても、子どもたちの実感があふれるように、伸びが大きい班が優れていると伝えることは効果的。

学習評価は技能だけではない！
小学校の体育の授業について

R4年 7月 25日 (月)

研修内容 活動・指導上の留意点



ポイント

- ・ 勢よくジャンプ ⇒ マットが動く ⇒ よい跳躍のイメージ
- ・ 両足を揃え、膝を曲げて、手を肩に着くように着地
→ 「ん」の字をつくる低い着地をすればマットが動く

◎ 試みにやってみて、初発の記録を計測

◎ 他人の課題を自分の手として、班で協力して課題解決に取り組み

○ マーカーを置いて、脚長距離を定める工夫

○ 「おはーおーい」「めっちゃいい」拍手などの声かけにより緊張が和らぐ

○ 跳び切りや着地についての相互のアドバイス

○ 「7-7-7ン-7-ン」といったオノマトペを用いた、声かけ

予想通り、おもしろい。
跳び切りや着地、両足で
跳び切りしよう。
→ 声かけの延長のイメージで
ジャンプできる

◎ 再度、学習した内容の記録を計測する。伸びを待たせ、フルマスの合計を出す。